

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（2021年12月1日現在）

承認番号	課題名	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者	対象疾患 (調査対象期間)	研究概要	抽出項目	予定症例数
第1821号	一般社団法人National Clinical Database(日本臨床データベース機構)への手術・治療情報登録における個人情報の取り扱いについて	2010年12月17日	期間設定なし	外科学 (心臓血管外科) 宮入 剛		URL参照 https://www.marianna-u.ac.jp/houjin/disclosure/clinical-research/marianna/file/optout/1821.pdf		
第2057号	抗菌薬適正使用ならびに手指衛生と耐性菌発生の関連性の検討	2012年2月3日	2022年5月31日	感染制御部 竹村 弘		URL参照 https://www.marianna-u.ac.jp/houjin/disclosure/clinical-research/marianna/file/optout/2057.pdf		
第2602号	維持期外来心臓リハビリテーションの参加の有無と転帰に関する研究	2014年1月22日	2024年3月31日	心臓病センター 【東横病院】 長田 尚彦		URL参照 https://www.marianna-u.ac.jp/houjin/disclosure/clinical-research/marianna/file/optout/2602.pdf		
第2683号	睡眠時無呼吸症候群外来を受診する患者背景の調査及び持続気道陽圧(CPAP)療法による患者背景の変化についての検討	2014年4月3日	2019年9月30日	内科学 (循環器内科) 関塚 宏光		URL参照 https://www.marianna-u.ac.jp/houjin/disclosure/clinical-research/marianna/file/optout/2683.pdf		
第3044号	神奈川県循環器救急患者の現状と予後に関する研究(神奈川県循環器救急Registry)	2015年8月12日	多施設レジストリーであり研究期間は設けていない	内科学 (循環器内科) 明石 嘉浩		URL参照 https://www.marianna-u.ac.jp/houjin/disclosure/clinical-research/marianna/file/optout/3044.pdf		
第3092号	糖尿病患者における血糖コントロール、合併症重症度および身体活動量と身体機能に関する調査・研究	2016年1月14日	2023年6月30日	生活習慣病センター 【東横病院】 太田 明雄		URL参照 https://www.marianna-u.ac.jp/houjin/disclosure/clinical-research/marianna/file/optout/3092.pdf		
第3314号	十二指腸非乳頭部上皮性腫瘍の内視鏡的および病理組織学的特徴に関する研究	2017年3月14日	2018年3月31日	病理学 藤野 節		URL参照 https://www.marianna-u.ac.jp/houjin/disclosure/clinical-research/marianna/file/optout/3314.pdf		
第3819号	当院における虫垂炎手術の治療成績	2018年1月10日	2019年3月31日	消化器病センター 【東横病院】 浜辺 太郎	虫垂炎 2012年1月1日～ 2016年12月31日	急性虫垂炎の治療方針は、緊急手術の適応を含めて施設間で違いがある。近年、保存的治療を先行させて、炎症のない時に待機的虫垂切除術を施行する(IntervalAppendectomy)ことが普及してきている。また、膿瘍形成性虫垂炎に関しても、緊急手術や穿刺ドレナージ、保存的治療を先行させてからの待機的虫垂切除などの適応を含め、治療方針に選択肢がある。当院における急性虫垂炎の治療成績を解析し、緊急手術や待機的手術などの治療方針の妥当性について検討する。	手術成績や術後経過(手術時間・出血量・合併症・術後在院日数など)	182例

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（2021年12月1日現在）

承認番号	課題名	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者	対象疾患 (調査対象期間)	研究概要	抽出項目	予定症例数
第3842号	当科における胃癌症例に関する臨床的特徴並びに治療成績の検討	2018年1月16日	2021年3月31日	外科学 (消化器・一般外科) 榎本 武治	胃癌 1989年4月1日～ 2020年9月30日	聖マリアンナ医科大学病院,東横病院,横浜市西部病院,川崎市立多摩病院で診療した特に胃癌患者症例の特に手術、栄養、感染の現状を把握するため、診断、治療、予後について調査を行う。	年齢、性別、既往歴、家族歴、血液検査(血算:白血球、ヘモグロビン、ヘマトクリット、MCV、MCH、MCHC、血小板、凝固:PT、PT-TNR、APTT、生化学検査:総蛋白、アルブミン、プレアルブミン、AST、ALT、クレアチニン、尿素窒素、CRP、血清鉄、TIBC、CEA、CA19-9、CA125、プロカルシトニン、プレセプシン等)画像診断(上部消化管造影、CT、MRI、上部消化管内視鏡、PET-CT等)手術症例:術式、出血量、合併症、転帰、病理検査結果、予後	5,000例
第3851号	一般社団法人日本脳神経外科学会データベース研究事業(Japan Neurosurgical Database: JND)	2018年3月20日	2023年9月30日	脳神経外科学 田中 雄一郎		URL参照 https://www.marianna-u.ac.jp/houjin/disclosure/clinical-research/marianna/file/optout/3851.pdf		
第3888号	当院における回腸人工肛門閉鎖術に関する検討	2018年2月28日	2019年3月31日	消化器病センター 【東横病院】 浜辺 太郎	回腸人工肛門形成状態 2011年1月1日～ 2017年11月31日	人口肛門閉鎖術は合併症発生率が高く、多くが創部感染であるとされる。人工肛門閉鎖術における環状皮膚縫合の有効性についての報告もある。また、緊急手術での人工肛門造設術は、定時手術よりも合併症発生率が高いことが想定される。今回、当院における回腸人工肛門閉鎖術に関して検討を行い、手術手技の妥当性について検討することを目的とした。	手術時間、出血量、合併症、術後在院期間、造設から閉鎖までの期間	41例
第4064号	脳血管造影後の穿刺部出血と抗血栓薬との関連性	2018年7月27日	2019年3月31日	脳卒中センター 【東横病院】 米津 美樹	橈骨動脈アプローチによる脳血管造影を行った患者 2011年11月1日～ 2018年5月31日	2011年医師と共同し「脳血管造影後止血プロトコール」を作成し、看護実践で本プロトコールが有効的に活用できた成果について、第28回日本脳神経血管内治療学会にて報告した。しかし近年、本プロトコールを逸脱する症例が増加している。その背景として、抗血栓薬併用の管理方法が変わったことが1つの要因として考えられる。そこで本研究では、抗血栓薬の併用方法と脳血管造影後の穿刺部出血の関連について、後方視的に調査をする。	既往歴、抗血栓薬の種類(バイアスピリン、プラビックス、プレタール、ワーファリン、DOAC)と用量、穿刺部出血の有無等	100例

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（2021年12月1日現在）

承認番号	課題名	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者	対象疾患 (調査対象期間)	研究概要	抽出項目	予定症例数
第4081号	当科における大腸癌症例に関する臨床的特徴並びに治療成績の検討	2018年8月6日	2020年3月31日	外科学 (消化器・一般外科) 牧角 良二	大腸癌 1989年4月1日～ 2018年3月31日	聖マリアンナ医科大学病院,聖マリアンナ医科大学東横病院,聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院,川崎市立多摩病院で診療した特に大腸癌患者症例の特に手術、栄養、感染の現状を把握するため、診断、治療、予後について調査を行う。	年齢、性別、既往歴、家族歴、血液検査(血算:白血球、ヘモグロビン、ヘマトクリット、MCV、MCH、MCHC、血小板、凝固:PT、PT-INR、APTT、生化学検査:総蛋白、アルブミン、プレアルブミン、AST、ALT、クレアチニン、尿素窒素、CRP、血清鉄、TIBC、CEA、CA19-9、CA125、プロカルシトニン、プレセプシン等)、画像診断(上部消化管造影、CT、MRI、上部消化管内視鏡等)、手術症例においては術式、出血量、合併症、転帰、病理検査結果、予後について	10,000例
第4096号	当院における鼠径部ヘルニアの診断方法と治療成績	2018年8月21日	2019年3月31日	消化器病センター 【東横病院】 丹波 和也	鼠径部ヘルニア 2011年1月1日～ 2017年12月31日	鼠径部ヘルニアでは術前に正確な分類を行うことは、外科的治療が適切かどうか、術式選択、および手術のタイミングを含む外科的介入の決定を行うために重要である。鼠径部ヘルニアは、身体診察で診断することができるが、疑わしい病変や非定型的な病変、ヘルニアのタイプ決定には信頼できないのが現状である。現在行われている画像診断は、腹部超音波検査やヘルニオグラフィー、腹部Computed Tomography(以下CT)検査が挙げられる。我々は、鼠径部ヘルニアが疑われた症例に対して鼠径部の除圧をして腹臥位で撮像するCT検査を行っている。当院では、腹腔鏡下手術を積極的に取り入れており、当院における腹腔鏡下ヘルニア修復術症例において、術前CT検査所見と腹腔鏡手術所見を評価して腹臥位CT検査の妥当性についてretrospectively検討する。	年齢、性別、病名、自覚症状の有無、身体診察所見、伏臥位CT検査、手術記録からヘルニア門の大きさ、ヘルニア修復に使用したメッシュの種類など	179例
第4098号	大腸癌リンパ節転移診断におけるOSNA™法に関する研究	2018年8月29日	2023年3月31日	消化器病センター 【東横病院】 小野 龍宣	大腸癌 2018年2月1日～ 2018年6月30日	One Step Nucleic acid Amplification(OSNA™)法は、CK19mRNAをマーカーとし、検体の可溶化から遺伝子増幅反応までをOne Stepで行うことのできるリンパ節転移検査法であり、乳癌、大腸癌、胃癌、非小細胞肺癌で保険適用されている。リンパ節全体を検査するため、通常病理検査と比較しより正確な転移判定が可能であるという特徴を有し、Stage II 大腸癌の17.6%がOSNA法併用によってStage IIIへアップステージすると報告されている。しかし、全てのリンパ節に対しOSNA法を行うことは業務的に煩雑であり、また高コストとなるなど諸問題が存在する。今回の研究では腫瘍に最も近い腸管傍リンパ節2～3個に対しOSNA法を併用し、その妥当性を検討することを目的としている。	年齢、性別、病名、腫瘍の占拠部位など	100例
第4125号	腸閉塞全国集計:腹腔鏡手術と癒着フィルムは腸閉塞を減少させたか?	2018年9月18日	2021年6月30日	消化器病センター 【東横病院】 古畑 智久		URL参照 https://www.marianna-u.ac.jp/houjin/disclosure/clinical-research/marianna/file/optout/4125.pdf		

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（2021年12月1日現在）

承認番号	課題名	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者	対象疾患 (調査対象期間)	研究概要	抽出項目	予定症例数
第4158号	急性期脳血栓回収療法施行時の救急外来における多職種の間短縮にむけての取り組み	2018年10月11日	2019年3月31日	看護部 【東横病院】 大森 早紀	脳梗塞 2016年4月1日～ 2018年3月31日	脳梗塞の治療は、発症から再開通までの時間がその患者の予後や生活の質に影響を及ぼすと言われている。そのため、発症からいかに短時間で治療を行うかが重要となってくる。当院では、年間約50件の緊急血栓回収術を実施しており、平成22年度より独自の「rt-PAプロトコール」を作成し、脳梗塞患者の来院から治療開始までの時間短縮に取り組んできた。血管内治療を目的とした救急搬送患者に早期診断・治療をするために、救急外来での滞在時間10分を目指して、多職種と定期的な症例検討会を開催し、各職種の改善策を検討し実施した事で、滞在時間の短縮が達成できたので、その成果を報告する。	救急外来来院時間から初療室退出までの時間	48例
第4169号	非外傷性小腸穿孔8例の検討	2018年10月5日	2019年3月31日	消化器病センター 【東横病院】 浜辺 太郎	非外傷性小腸穿孔 2012年1月1日～ 2017年12月31日	非外傷性小腸穿孔は消化管穿孔の中で比較的稀な病態である。原因は多岐にわたり、症状は非特異的で、術前診断に難渋することがある。そのため治療が遅れ、不良な経過を辿ることがある。今回、当院における非外傷性小腸穿孔の手術症例を検討し、その臨床的特徴と治療の妥当性を検討することを目的とした。	患者背景(年齢、性別、病名など)、手術成績、術後経過(手術時間、出血量、合併症、術後在院日数など)	8例
第4192号	pT1大腸癌におけるリンパ節転移リスク因子の検討	2018年11月8日	2020年3月1日	消化器病センター 【東横病院】 小野 龍宣	大腸癌 2011年1月1日～ 2017年12月31日	大腸癌治療ガイドラインではpT1b大腸癌(粘膜下層浸潤癌)の治療方針として、リンパ節郭清を含む外科的切除が推奨されている。種々の理由により内視鏡的摘除のみで無再発で経過する症例が存在することから、外科的切除の適応症例のさらなる絞り込みが望まれている。本研究は、pT1大腸癌(粘膜癌あるいは粘膜下層浸潤癌)のリンパ節転移に関わる新たな因子を見出すことを目的とする。	年齢、性別、手術区分(内視鏡的摘除の有無)、組織型、粘膜下層浸潤距離、リンパ節転移の個数および占拠部位(右側あるいは左側)、術後再発の有無、リンパ管侵襲・血管侵襲の有無、腫瘍最大径など	159例
第4197号	失神発症前の生体情報の変化に関する検討	2018年11月21日	2020年3月31日	内科学(循環器内科) 【東横病院】 古川 俊之	失神 2013年4月1日～ 2018年10月5日	失神患者には多くの場合心拍数、脈拍、血圧を中心とした生体情報の変化が出現する。その変化を自覚症状として認識できる患者も存在するが、まったく自覚症状がなく、突然に意識をなくす患者が散見される。生体情報より失神の発生が予測可能であれば、転倒による外傷や交通事故を防ぐことが可能である。本研究の目的は自動的に失神の発症を予測するアプリケーション等の製作における前段階として、一般診療により得られた心電図等の生体情報を解析し、自動的に失神の予測が可能かどうかを検討する。	年齢、性別等の臨床的特徴、血圧、心電図、体動情報および発症した失神の種類	500例

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（2021年12月1日現在）

承認番号	課題名	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者	対象疾患 (調査対象期間)	研究概要	抽出項目	予定症例数
第4200号	急性期虚血性脳卒中の再開通療法における施設間医療連携に関する調査研究(Part1.Drip & Ship法に関する調査研究)(Part2.MTIに関する調査研究)後方的観察研究	2018年11月9日	2020年3月31日	内科学(神経内科) 長谷川 泰弘	急性期虚血性脳卒中 2016年1月1日～ 2017年12月31日	急性虚血性脳卒中(acute ischemic stroke、以下AIS)に対する治療としては、rt-PA静注療法(intravenous recombinant tissue-plasminogen activator、以下IV tPA)と血管内治療:機械的血栓回収療法(mechanical thrombectomy、以下MT)有効性が確立しており、この2つの治療法をできるだけ多くの患者に、できるだけ早く適用することにより、患者の転帰の向上と要介護者の低減を図ることが期待されている。IV tPAは2005年の薬事承認以来、日本脳卒中学会(以下JSS)が適正使用指針を定め普及を図ってきたが、今もその治療実績に地域差があることが知られておりその詳細の把握および対策に課題が残されている。本研究では、遠隔診療を用いた診断の補助や、DripandShip法、DripandStay法の活用を含む、地域における脳卒中急性期の施設間連携体制の現状・課題及びその解決策を明らかにすると共に、施設間連携医療の有効性や安全性に関する科学的根拠の創出が求められる。以上によりPart1:Drip&Ship法を活用した急性虚血性脳卒中に対する再開通療法の施設間連携医療の実態を明らかにする。Part2:急性虚血性脳卒中に対する再開通療法の実態を明らかにする。ことを目的とする	病歴(実施日、年齢、性別、発症前mRS、最終健常時刻、医療機関1到着時刻、Ivrt-PA開始時刻、医療機関1発出時刻、医療機関2到着時刻、MT開始時刻、再開通時刻、ベースラインNIHSS、ASPECTS-CT、ASPECTS+W、MRI閉塞動脈、Ivrt-PAの有無、MT再開通結果、手技に関するイベント、その内容、症候性頭蓋内出血の有無、その内容、7日後mRS、90日後mRS	500例 (全体2,500例)
第4212号	当施設における頸動脈ステント留置術試行例の長期転帰の観察研究	2018年11月22日	2019年12月31日	内科学(神経内科) 【東横病院】 臼杵 乃理子	内頸動脈頸動脈狭窄症 2008年6月1日～ 2018年6月30日	頸動脈狭窄症に対するステント留置術は、2007年9月保険収載後、頸動脈内膜剥離術に代わる低侵襲な治療として普及してきた。この治療は、脳梗塞発症予防が目的であり、長期成績が明らかにされることは非常に重要である。当院脳卒中センター開設後に実施した頸動脈ステント留置術後の長期予後を明らかにすることを目的とする。	患者背景(年齢、性別、基礎疾患の有無等)、頸動脈狭窄による症候の有無、狭窄率、症候の発生から治療までの期間、周術期抗血栓療法の有無とその種類、使用ステントの種類、遠位血栓予防デバイスの有無とその種類、周術期合併症、遅発性再狭窄の有無、周術期以降の心血管イベント、追跡可能期間内における最終転帰(mRS)、死因(死亡された場合)、再治療の有無、観察された日時・各イベント発生日時・治療日時について	300例
第4238号	心不全患者の身体機能とADLの経年的変化の検討	2018年12月12日	2021年3月31日	リハビリテーション部 【東横病院】 赤尾 圭吾	心不全 除外基準:入院中にリハビリテーションを施行しなかった患者。入院中に死亡した患者。治療目的に他院に転院し、他院から自宅あるいは施設に退院した患者。 2015年4月1日～2018年10月31日	心不全患者の高い再入院率は問題となっている。更に、日本循環器学会が発表したガイドラインでは、心不全を発症すると、身体機能は低下し、急性増悪(急性心不全)により身体機能の低下が助長されると報告している。しかし、実際に身体機能やADLの変化を経年的に報告した者は我々の知る限りない。そこで本研究は、心不全患者における身体機能やADLの変化を検討することを目的とし、退院時を基準として、外来リハビリテーションでの評価や再入院時にどのように変化するかを論議する。	①症例背景因子(年齢、性別、身長、体重、介護度、ADL自立の可否、入退院日)、②医学的情報(診断名、心不全での初回入院日、心不全での入院回数、心エコー所見、血液生化学データ、処方薬、併存疾患)、③身体機能(握力、膝伸展筋力、10m歩行速度、連続歩行距離、Barthel Index、Short Physical Performance Battery)、④体組成、⑤認知機能(Mini-Mental State Examination)、⑥抑うつ(Geriatric Depression Scale-5)	400例

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（2021年12月1日現在）

承認番号	課題名	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者	対象疾患 (調査対象期間)	研究概要	抽出項目	予定症例数
第4258号	脳血管障害患者における 予後予測ノモグラムの作 成	2019年1月7日	2024年3月31日	リハビリテーション部 【東横病院】 八木 麻衣子	急性期脳血管障害(脳梗 塞、脳出血) 2015年4月1日～ 2018年11月30日	脳血管障害患者の予後を発症後早期より予測 することは、急性期病院からの転帰先やその後 の生活像の決定によるQOLの維持・向上のため にも非常に重要である。現在、脳血管障害患者 においては、治療方法の進展、高齢化に伴う身 体・認知機能低下や重複障害の合併、社会背 景の多様化など、身体機能以外の様々な要素 を含めた、多角的な分析が必要であると考えら れる。よって、本観察研究の目的は、脳血管患 者における予後予測を総合的に評価でき、かつ 可視化されたモデルを作成することを目的とし る。	(1)患者背景に関する項目:年齢、性別、既往 歴、入院前ADL、生活環境、(2)疾患・治療に 関する項目:病歴、入院時現症、治療経過、画像 所見、検査所見、(3)身体・高次脳機能:麻痺重 症度、感覚障害、起居動作能力、高次脳機能、 ADL、(4)リハビリテーションの実施状況:介入 日、実施日、車椅子座位までの獲得日数	1,250例
第4289号	東横病院における上部消 化管内視鏡下治療の全 身麻酔の検討	2019年1月28日	2019年11月30日	麻酔科【東横病院】 関 一平	全身麻酔下の内視鏡胃粘 膜下層剥離術、食道粘膜 下層剥離術など上部消化 管内視鏡下の治療 2015年6月1日～ 2018年12月31日	近年、上部消化管内視鏡による治療は、低侵襲 で回復が早く、合併症を持つ患者や高齢者にも 適応があることから当院では症例が増加してお り、その全身麻酔下で行われた症例の全身麻 酔、術中管理、合併症を検討する。	年齢、性別、身長、体重、術前合併症、術前検 査値(心エコー、呼吸機能検査)、麻酔法、麻酔 時間、手術時間、バイタルサイン(血圧、心拍 数、体温、経皮的酸素飽和度、呼気終末二酸化 炭素分圧)、術中体位	94例
第4312号	日本心血管インターベン ション治療学会内登録 データを用いた統合的解 析(レジストリー研究)	2019年4月17日	2027年3月30日	内科学(循環器内科) 田邊 康宏		URL参照 https://www.marianna-u.ac.jp/houjin/disclosure/clinical-research/marianna/file/optout/4312.pdf		
第4333号	急性期脳梗塞患者にお ける急性期血行再建術 前後での画像所見につ いての検討	2019年2月26日	2020年3月31日	内科学(神経内科) 【東横病院】 高石 智	脳梗塞 2010年4月1日～ 2019年2月13日	現在急性期脳梗塞において、画像上広範な脳 梗塞所見が得られた症例に対する急性期血行 再建術の施行は推奨されていない。一方、実臨 床においては来院時に広範な梗塞像を示す症 例であっても、良好な転機をたどる症例を認め、 治療後に画像上の異常信号域の縮小を認める 症例も経験する。本研究では急性期血行再建 術施行前後の画像所見を比較し、その変化およ び、臨床症候との関連を観察、評価を行うこと を目的とする。	来院時に撮影した頭部MRI、CT、CT perfusion 像および血行再建術を施行した後の頭部MRI、 CT、CT perfusion画像検査結果、異常信号域の 分布、体積、血流に関する各種パラメーターな ど	200例
第4336号	消化器内視鏡に関連する 疾患、治療手技デー タベース(Japan Endoscopy Database;JED)事業への 登録	2019年3月25日	2024年12月31日	内視鏡センター 安田 宏		URL参照 https://www.marianna-u.ac.jp/houjin/disclosure/clinical-research/marianna/file/optout/4336.pdf		

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（2021年12月1日現在）

承認番号	課題名	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者	対象疾患 (調査対象期間)	研究概要	抽出項目	予定症例数
第4348号	当院における早期胃癌に対するESD後の腹腔鏡下胃切除例の検討	2019年3月19日	2019年12月31日	消化器病センター 【東横病院】 佐々木 貴浩	腹腔鏡下胃切除術症例 2008年9月1日～ 2018年12月31日	ESD(Endoscopic submucosal dissection)の導入により早期胃癌における内視鏡治療の適応が拡大されつつある。2008年9月に当院は開院され、それ以降ESD後に腹腔鏡下で追加切除を要した症例についての妥当性と安全性について検討する。	年齢、性別、BMI、ASA、追加切除理由、手術時間、出血量、在院期間、合併症の有無	87例
第4392号	急性期血行再建術による再開通後の急性脳腫脹に影響する因子についての検討	2019年4月24日	2020年3月31日	脳卒中センター 【東横病院】 濱田 祐樹	脳梗塞 2013年1月1日～ 2019年1月31日	急性期血行再建術によって再開通が得られても、急性脳腫脹を生じて転帰不良となった症例を稀に経験する。そこで急性脳腫脹い影響を与えた因子について検討する。	年齢、性別、発症前mRS、危険因子、脳梗塞既往、冠動脈疾患既往、閉塞血管、臨床病型、入院時NIHSS、入院時DWI-ASPECTS抗血栓薬（非ビタミンK拮抗抗凝固薬、ワルファリンカリウム抗血小板薬）の内服の有無、治療関連時間、rt-PAの有無、再開通率、治療合併症、退院時mRS、死亡、MRI画像	100例
第4396号	「消化器内視鏡に関連した偶発症の全国調査」への登録	2019年5月13日	2021年6月30日	内科学 (消化器・肝臓内科) 安田 宏	URL参照 https://www.marianna-u.ac.jp/houjin/disclosure/clinical-research/marianna/file/optout/4396.pdf			
第4421号	大腸Neuroendocrine tumor (NET)の臨床病理学的検討	2019年5月23日	2020年3月31日	消化器病センター 【東横病院】 小野 龍直	大腸NET 2011年1月1日～ 2017年12月31日	大腸NETの多くは虫垂と直腸に発生する。NET診療ガイドラインにおける治療方針は、虫垂では腫瘍径≤2cm:虫垂切除、>2cm:リンパ節郭清を伴う回盲部切除、直腸では腫瘍径≤1cm:内視鏡治療、>1cm:リンパ節郭清を伴う直腸切除とされている。本学における大腸NET手術症例を対象に臨床病理学的検討を行い、治療の現状と成績について調査する。	手術適応とした理由、手術術式、切除標本の病理学的検査結果、術後経過について	9例

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（2021年12月1日現在）

承認番号	課題名	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者	対象疾患 (調査対象期間)	研究概要	抽出項目	予定症例数
第4422号	頸動脈ステント留置術後のステント内内膜肥厚に関する後方的観察研究	2019年5月23日	2023年5月30日	内科学 (脳神経内科) 萩原 悠太	頸動脈狭窄症 2010年4月1日～ 2021年3月15日	頸動脈ステント留置術(Carotid artery stenting;CAS)では、術数年後にステント内再狭窄(in-stent restenosis:ISR)が起こり、再治療を要することがある。ISRの頻度はCREST研究では2年間で6.0%、SPACE研究では2年間で11.1%、EVA-3S研究では3年間で3.3%と報告されている。ISRは平滑筋細胞(smooth muscle cell)の増殖やマトリックス増生による新生内膜の肥厚が関係しているとされ、ステント内内膜肥厚(in-stent intimal hyperplasia:ISH)は将来ISRを来す原因の一つであり、ISRを予測する重要な所見である。今回我々は、ISHを来す要因を明らかにするために本研究を考案した。通常、CAS後は、およそ6ヶ月の時点で頸動脈血管撮影にて、留置ステント内の状況を観察する。今回の検討では、2010年4月～2018年3月までのあいだに大学病院、東横病院にてCASが施行された患者を、後方視的に調査し、術後6ヶ月の時点でISHの有無とCAS術前画像検査所見、患者背景のあいだの相関を検討し、内膜肥厚が起きる要因について明らかにする予定である。	対象患者の病歴(年齢、性別動脈硬化リスク因子、生活歴)、身体所見、血液検査データ、頭部MRI、MRA所見、超音波検査所見	210例
第4474号	cT4結腸癌治療の現状と成績の検討	2019年7月25日	2021年3月31日	消化器病センター 【東横病院】 小野 龍宜	2011年1月1日～ 2015年12月31日 大腸癌	2019年播大腸癌治療ガイドラインでは、大腸癌に対する腹腔鏡手術は選択肢のひとつとして行うことを弱く推奨すると記載されており、T4に関しては腹腔鏡手術の予後が悪いとの傾向があり、慎重に適応を決定する必要があると記載されている。当院におけるcT4結腸癌の治療の現状と成績を検討し、今後の課題について考察する。	浸潤臓器、腹膜播種の有無、病期、根治切除であった症例数、再発率、再発部位	88例
第4483号	頸動脈ステント留置術における遠位バルーン閉塞下吸引返血法の有用性	2019年8月23日	2021年3月31日	内科学 (脳神経内科) 【東横病院】 徳山 承明	頸動脈狭窄症 2008年6月1日～ 2018年12月31日	頸動脈ステント留置術(CAS)の最も重要な合併症である塞栓性脳梗塞の発症率は、遠位塞栓予防デバイス(EPD)の使用により低減されるが、どのタイプのEPDを使用するかを含め、具体的な方法の優劣については一定の見解が無い。当院では遠位バルーン閉塞下に吸引血を迎血することでCAS術中の閉塞性合併症の低減につとめており、これまでの治療成績について後ろ向きに検討する。	術後貧血、術後低血圧の頻度、MRI虚血病巣の特徴(大きさ、個数)	300例

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（2021年12月1日現在）

承認番号	課題名	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者	対象疾患 (調査対象期間)	研究概要	抽出項目	予定症例数
第4491号	脳卒中症例の屋内歩行自立に関連する因子の検討—注意障害の有無による急性期病院退院時機能評価の検討—	2019年7月31日	2021年3月31日	リハビリテーション部 【東横病院】 長田 敏輝	2016年4月1日～ 2019年3月31日 脳卒中センターに入院し各種内科的治療、血管内治療および外科的治療など、脳卒中急性期治療を適宜行い、リハビリテーション指示のあった症例除外基準:入院前ADL非自立症例(入院前modified Rankin Scale3以上)	近年の脳卒中リハビリテーションでは、医療機関の機能分化により、急性期病院では在院日数の短縮が求められ、理学療法士にはリハビリテーション開始とともに自宅退院の可否などを早期より予測し、方針決定のための多職種への速やかな情報提供が求められる。脳卒中患者の歩行自立は、患者の自宅退院の可否の判定において重要な指標である。認知機能障害の背景には注意障害があり、注意障害は発症早期の脳卒中患者のおよそ46～92%と高頻度に出現することが報告されている。したがって、注意障害の有無も急性期の歩行自立に関連する因子として考慮すべきであると考えられる。そこで、本研究は、急性期病院における脳卒中患者の退院時歩行自立に注意障害が影響するかを検討することを目的とした。	年齢、性別、体重、入院前mRS、既往歴(脳血管障害、2回以上の脳血管障害、認知症、高血圧、脂質異常、耐糖能異常、心房細動、虚血性心疾患、心不全)の有無。疾患項目:病型分類(NINDS分類)、急性期病変部位(皮質、放線冠、内包、被殻、視床、脳幹、小脳)、急性期病変の左右半球、急性期病変以外の部位、治療内容(t-PA静注療法、血管内治療、外科的治療の有無)、入院時・退院時NIHSS。入院中経過項目:在院日数、リハビリテーション開始までの日数、リハビリ室入室までの日数、車椅子座位獲得までの日数、合併症(呼吸器感染症・尿路感染症・心不全急性増悪)の有無。身体機能項目(リハビリ室初回来室時、退院時):意識障害、運動麻痺、非麻痺側筋力、握力、運動失調の有無、感覚障害(表在感覚、深部感覚)の有無、認知障害、高次脳機能障害の有無、体幹項目、注意障害の有無。	600例
第4565号	当院における任意型または対策型上部消化管内視鏡検査受診者の背景と疾患分布の解析	2019年10月18日	2022年3月31日	消化器病センター 【東横病院】 五十嵐 央祥	当院における人間ドックまたは川崎市胃がん検診での上部内視鏡検査受診者 2013年4月1日～ 2019年30日	対策型胃がん検診において内視鏡検査が実施可能となつて約5年が経過しているが、受診率の低迷や検診体制の標準化など解決すべき課題が多い。本研究では任意型検診である人間ドックと対策型検診である川崎市胃がん検診で上部消化管内視鏡検査を受けた患者の背景や内視鏡診断結果を解析することで、対策型胃がん検診の現状と問題点を明らかにし、それらの改善への方策を検討する。	年齢、性別、受診回数、内視鏡診断名	20,000例
第4620号	Stage II、III、IV胃癌の腫大したリンパ節のOSNA法併用による予後予測因子の検討	2019年12月20日	2021年3月31日	消化器病センター 【東横病院】 佐々木 貴浩	胃癌症例 2018年2月1日～ 2019年12月1日	One Step Nucleic acid Amplification(OSNA)法は、CK19mRNAをマーカーとし、検体の可溶化から遺伝子増幅までをOneStepで行う、リンパ節転移検査法の1種である。現在、乳癌、大腸癌、胃癌、非小細胞肺癌で保険適用されており、大腸癌では通常の病理検査と比較してより正確な転移判定が可能で、stage II大腸癌の17.6%がOSNA法の併用でstage IIIへup stageすると報告もされている。保険収載はされているが、胃癌におけるOSNA法の意義については報告が少なく、今回、当院で施行された手術について、切除されたリンパ節で、HE染色およびOSNA法での病理検査を施行し、up stageの有無を検索するとともに、予後予測因子としての意義を検討する。	年齢、性別、腫瘍の一、深達度、胃癌のstage、HE染色およびOSNA法のリンパ節転移の有無	50例

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（2021年12月1日現在）

承認番号	課題名	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者	対象疾患 (調査対象期間)	研究概要	抽出項目	予定症例数
第4624号	不安定プラークを伴う頸動脈狭窄症に対するダブルステントの有用性	2019年12月23日	2022年12月31日	内科学(脳神経内科) 【東横病院】 臼杵 乃理子	内頸動脈頸動脈狭窄症 2008年6月1日～ 2018年5月31日	頸動脈狭窄症に対するステント留置術(以下、CAS)は、2007年9月保険収載後、頸動脈内膜剥離術に代わる低侵襲な治療として普及してきた。多量の不安定プラークにおいて遠位塞栓合併のリスクが高い。当施設では、多量の不安定プラークを伴う頸動脈狭窄症に対するCASにおいて、open cell stentとclosed cell stentの2枚を重ねるdouble stenting法を用いている。今回、double stenting法によるCASにおける塞栓性合併症の予防効果および中長期予後を明らかにすることを目的とした。	収集する情報、患者背景因子(年齢、性別、基礎疾患の有無等)、頸動脈狭窄による症候の有無、狭窄率、症候の発生から治療までの期間、周術期抗血栓療法の有無とその種類、使用ステントの種類と数、遠位塞栓予防デバイスの有無とその種類、周術期合併症(すべての脳卒中、過灌注症候群、心筋梗塞、死亡)、ステント内血栓症・プラーク逸脱、再狭窄の有無、周術期以降の同側脳梗塞、再治療の有無、追跡可能期間内における最終転帰、死因(死亡の場合)	100例
第4662号	開頭クリッピング手術時のクリップと母血管の角度に関する後ろ向き研究	2020年1月30日	2022年3月1日	脳神経外科 【東横病院】 吉田 泰之	当院で開頭脳動脈瘤クリッピング手術を必要とした疾患患者 2017年4月1日～ 2019年6月30日	当院で行なう脳動脈瘤に対する開頭クリッピング手術件数が増加しており、特に複雑な形状の症例が散見されるようになった。そこでクリッピングの際に脳動脈瘤と母血管の角度やクリップのアプローチ方向を後方視的に観察し、検討することにより有害事象の発生率を下げることを目的とする。	年齢、性別、基礎疾患の有病を含めた患者背景、疾患、手術所見、手術所要時間、入院期間、画像(頭部レントゲン、頭部CT、MRI、脳血管撮影)の所見	200例
第4736号	日本人脳出血患者における適切な超急性期降圧療法の探求：SAMURAI-ICH研究とATACH2試験の個別データ統合解析 SAMURAI-ICH + ATACH-2 統合解析研究	2020年4月9日	2022年3月31日	内科学 (脳神経内科) 秋山 久尚		URL参照 https://www.marianna-u.ac.jp/houjin/disclosure/clinical-research/marianna/file/optout/4736.pdf		

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（2021年12月1日現在）

承認番号	課題名	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者	対象疾患 (調査対象期間)	研究概要	抽出項目	予定症例数
第4750号	大腸癌手術症例の治療成績および予後因子の解析	2020年4月10日	2023年12月31日	外科学 (消化器・一般外科) 【東横病院】 古畑 智久	大腸癌 2010年1月1日～ 2019年12月31日	本邦における大腸癌治療ガイドラインは、大腸癌研究会にて作成されており、2～3年毎に改訂されている。本学消化器・一般外科ではガイドラインに則った治療を行うことを基本的な治療方針としているが、患者さんの身体的、社会的要因などにより、実際に行われる治療はガイドラインどおりではない場合がある。また、全てのガイドラインの記載が、高いエビデンスに基づいているわけではなく、今後、解決すべきクリニカルクエスチョンが未だに存在している。本研究では、大腸癌手術症例の治療法、治療成績を検討することによって、治療成績向上のための対策、新たなクリニカルクエスチョンを考案することを目的とする。	臨床病理学的因子、治療方法、ガイドライン遵守状況、全生存期間、無病生存期間、無再発生存期間、予後規定因子	2,500例
第4848号	pStage II 大腸癌に対するOSNA法によるリンパ節微小転移診断意義の検討	2020年6月19日	2026年6月30日	外科学 (消化器・一般外科) 【東横病院】 古畑 智久		URL参照 https://www.marianna-u.ac.jp/houjin/disclosure/clinical-research/marianna/file/optout/4848.pdf		
第4856号	閉塞性大腸癌に対しステント留置後手術を施行した症例の治療成績の解析	2020年6月30日	2023年12月31日	外科学 (消化器・一般外科) 【多摩病院】 四万村 司	閉塞性大腸癌 2012年1月1日～ 2020年3月31日	閉塞性大腸癌に対して以前は緊急手術で人工肛門を増設し腸閉塞を解除、精査施行した後に根治切除を行っていた。これでは手術が2回になり、人工肛門増設、創感染等のデメリットがあった。近年、狭窄部位に自己拡張型金属ステント(Self-expandable metallic stent:以下SEMS)を留置し腸閉塞を解除、精査施行した後に手術を行っている。これにより手術は1回で済み、手術までの一時退院も可能になった。当院においても保険収載された2012年以降に閉塞性大腸癌に対し積極的にSEMS留置し、その後手術を行っている。本研究はSEMS留置後に手術を施行した症例について留置術関連、留置後手術までの期間の事象、手術関連について検討し、現状の治療方法の妥当性を検討することを目的とする。	臨床病理学的因子(年齢、性別、占拠部位、stage等)、SEMS留置術に関する情報(種類、留置術時の合併症、効果等)、SMES留置後から手術までの状況(留置期間、合併症、栄養状態の変化等)、手術に関する因子(術式、手術時間、出血量、合併症、一時的吻合の有無、人工肛門増設の有無、術後在院日数)	150例

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（2021年12月1日現在）

承認番号	課題名	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者	対象疾患 (調査対象期間)	研究概要	抽出項目	予定症例数
第4872号	外減圧術後の人工骨による頭蓋骨形成術に対する観察研究	2020年6月24日	2023年12月31日	脳神経外科 【東横病院】 小野 元	頭部欠損症例で人工骨による頭蓋骨形成症例にかぎる 2009年6月1日～ 2020年5月31日	頭部外傷などにより頭蓋骨を外減圧された症例に対して頭蓋骨形成術を行うが、用いる人工骨は日本でもいくつかの種類があり使用されている。我々は骨新生形性を促進する材料であるハイドロキシアパタイトを用いている。しかし人工物を留置する場合皮膚障害や感染のリスクもあり慎重に実施している。今回手術後の皮膚障害・感染について臨床的特徴やその原因精査や検討を診療録から観察研究を行う。	原因疾患、頭蓋骨形成までの期間、感染有無、年齢/性別、人工骨のサイズおよび通常視診で確認しうる頭部CT、頭部MRI、頭部レントゲン写真	53例
第4882号	腹腔鏡下直腸癌切除における技術認定医手術参加の有用性に関する検討 The study investigating the Impact of Endoscopic Surgical Skill Qualification in Laparoscopic Resection for Rectal Cancer in Japan (EnSSURE study)	2020年7月14日	2021年6月30日	外科学 (消化器・一般外科) 【西部病院】 國場 幸均	直腸癌(ステージⅡ-Ⅲ)に対し腹腔鏡手術を受けた患者 2014年1月1日～ 2016年12月31日	腹腔鏡下大腸切除における内視鏡外科技術認定医が手術に参加することの短期及び長期の患者アウトカムに与える影響を検討することを目的とする。 結腸癌における腹腔鏡手術は、開腹術と比較して、短期成績でより優れ、長期成績で劣らず、今日では世界的に広がりを見せている。本邦に於いても、エキスパートによる腹腔鏡下結腸切除の短期長期的有用性が示されている。また、直腸癌においても、腫瘍学的あるいは長期な安全性において結論が出ていないものの、短期成績における優越性を示唆する報告を多く認め、本邦に於ける30%以上の直腸癌手術が腹腔鏡下に行われている。 一方、2004年に日本内視鏡外科学会により制定された内視鏡外科学会技術認定制度は、技術基準及び、後進を指導するにたる所定の基準を満たした者の技術を認定している。認定試験では、一定の外科的経験の後に取得される外科専門医取得2年後から受験資格が得られ、一定基準の経験業績と基本術式であるS状結腸切除または高位前方切除のノーカット手術動画評価による技術判定が行われる。手術動画は3本提出し、匿名下に2名または3名の審査委員によって技術の安全性が評価される。この技術認定制度はこれまで、日本の腹腔鏡下大腸切除の普及や発展に貢献してきたと考えられ、技術の伝承および質の担保に有用と考えられる。しかしながら、技術認定医による手術指導の有用	カルテ情報 年齢、性別、BMI、ASA、術前腸閉塞有無、腫瘍主座、初診時ステージ、T因子、N因子、術前治療(なし/NAC/CRT)術式、IMA高位結紮、側方郭清、脾彎曲授動、吻合方法、diverting stoma有無、合併切除、手術日、手術時間、出血量、術中合併症、開腹移行、術後全合併症、退院日、腫瘍最大径、組織型、病理学的ステージ、T因子、N因子、ly因子、v因子、R、リンパ節採取個数、術後補助療法有無内容、転機、最終確認日、再発が確認された日、初発再発形式 認定医の手術参加情報 1、第一術者 認定医か非認定医 2、第二術者 認定医か非認定医 3、第一助手 認定医か非認定医 4、第二助手以降またはカメラ助手 認定医を含むか含まない 5、認定医の術野外指導者 ありかなし	140例 (全体5000例)
第4939号	日本国内の脳神経血管内治療に関する登録研究4 Japanese Registry of Neuroendovascular Therapy 4(JR-NET 4)	2020年10月9日	2022年12月31日	内科学 (脳神経内科) 【東横病院】 植田 敏浩		URL参照 https://www.marianna-u.ac.jp/houjin/disclosure/clinical-research/marianna/file/optout/4939.pdf		

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（2021年12月1日現在）

承認番号	課題名	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者	対象疾患 (調査対象期間)	研究概要	抽出項目	予定症例数
第4967号	脳出血例で潜在性脳動脈奇形存在を予測する術前因子に関する研究	2020年9月8日	2020年3月31日	脳神経外科学 【東横病院】 吉田 泰之	非外傷性で動脈瘤や腫瘍など出血の原因が同定されていないが血腫除去術を必要とした患者 2014年1月1日～ 2020年5月31日	潜在性脳動脈奇形(occult AVM)は脳出血の原因が、術前画像検査などで同定されない病態で、術中止血に難渋する、あるいは術後に再出血をきたすことがある。術前にoccult AVMの有無が予測できるか、脳出血の手術症例を検討する。	患者背景、基礎疾患、抗血栓薬など内服の有無、来院時のバイタルサイン、術前の意識レベル(GCS)、神経学的所見(HIHS)、出血部位、血腫量	100例
第4983号	脳神経内科領域疾患の病態解明および診断・治療・予防法の開発に関するレジストリ研究	2020年11月9日	永年	内科学(脳神経内科) 山野 嘉久		URL参照 https://www.marianna-u.ac.jp/houjin/disclosure/clinical-research/marianna/file/optout/4983.pdf		
第4991号	当院で腹腔鏡手術を施行した広靭帯内発育子宮筋腫に関する検討～筋腫核授動について～	2020年10月6日	2020年12月1日	産婦人科学 【東横病院】 白石 絵莉子	子宮筋腫 2018年10月1日～ 2019年9月30日	広靭帯内発育子宮筋腫(靭帯内筋腫)は、術前の画像検査などでは評価することが難しく、術中に診断することが多い。靭帯内筋腫は筋腫による解剖学的偏位により尿管損傷や血管損傷のリスクが多く、手術を困難にするケースが多い。よって、本研究では筋腫核を授動して後腹膜腔の解剖学的偏位を是正する筋腫核授動法の当院での工夫と有用性について検討する。	診療録及び手術動画、画像検査による筋腫径、手術時間、出血量	31例
第5061号	回腸人工肛門閉鎖術後創部に対する陰圧閉鎖療法の有用性	2020年12月10日	2021年7月31日	消化器病センター 【東横病院】 佐々木 貴浩	回腸人工肛門閉鎖症例 2018年3月1日～ 2020年10月31日	人工肛門閉鎖術は、比較的低侵襲の手術であるが合併症の頻度は高く、そのほとんどは手術部位感染とされる。その対策として、環状縫合が広く行われてきているが、創部の肉芽形成までの期間が長いことが問題点として考えられる。われわれは、2018年3月より、回腸人工肛門閉鎖術後創部に対して、創感染予防と早期肉芽形成を目的に、環状縫合閉鎖に加えて陰圧閉鎖療法を導入したので、その有用性について検討する。	年齢、性別、人工肛門閉鎖までの時間、手術時間、出血量、合併症、肉芽形成時間	50例

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（2021年12月1日現在）

承認番号	課題名	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者	対象疾患 (調査対象期間)	研究概要	抽出項目	予定症例数
第5089号	完全腹腔鏡下幽門側胃切除術における Augmented rectangle technique(ART)吻合の安全性	2021年1月6日	2025年12月31日	消化器病センター 【東横病院】 佐々木 貴浩	腹腔鏡下幽門側胃切除症例 2009年6月1日～ 2020年10月31日	胃癌に対する腹腔鏡下手術は、リンパ節廓清を完全腹腔鏡下に行い、再建手技を小開腹併用で行う腹腔鏡補助下手術から導入された。現在は吻合も完全腹腔鏡下で行うことが多く、吻合法は三角吻合、デルタ吻合、book binding technique(BBT)など報告されている。ART吻合は他の吻合と異なり、吻合口が大きな四角形となり、われわれは、このART吻合を導入し、それ以前の吻合と比較し、安全性を検討する。	年齢、性別、BMI、手術時間、出血量	105例
第5137号	頭蓋内動脈狭窄に対する脳血管内治療の治療成績についての観察研究	2021年2月9日	2021年12月31日	内科学 (脳神経内科) 【東横病院】 植田 敏浩	頭蓋内主幹動脈の症候性高度狭窄症 2008年7月1日～ 2020年12月31日	頭蓋内主幹動脈の症候性動脈硬化性高度狭窄は本邦における脳梗塞発症原因として重要なものである。そこで本疾患に対して、当院にて脳血管内治療(バルーン拡張術またはステント留置術)を施行した症例について、周術期合併症、再狭窄、経過観察中の脳卒中再発について、後方視的に調査することを目的とする。	年齢、性別、基礎疾患や発症の状況、MRI/MRA所見、狭窄血管の部位と程度、内服薬など。脳血管内治療の手技と治療結果、周術期合併症、その後の経過観察中の再狭窄や脳梗塞の再発、有害事象や死亡などの転帰	200例
第5193号	胆嚢摘出術における Senhance Digital Laparoscopy Systemの安全性	2021年2月26日	2021年12月31日	消化器病センター 【東横病院】 佐々木 貴浩	腹腔鏡下胆嚢摘出術症例 2009年6月1日～ 2021年1月31日	Senhance Digital Laparoscopy System (SDLS) は、腹腔鏡下手術をデジタル化し、より安全に施行できることを目指して開発されたシステムで、従来の腹腔鏡下手術と同じトロッカーを使用することで、小さな創で施行可能である。2019年に全ての腹腔鏡下手術に対して保険収載され、胃癌、大腸癌以外にも胆石症、ヘルニア、泌尿器疾患、婦人科疾患にも保険適応されている。われわれは、このSDLSを導入し、胆嚢摘出術において、それ以前の腹腔鏡下手術と比較し、安全性を検討する。	年齢、性別、BMI、手術時間、出血量	40例
第5197号	ワルファリン関連脳内出血に対する乾燥濃縮人プロトロンビン複合体製剤投与後の開頭血腫除去術に関する検討	2021年2月26日	2023年3月31日	脳神経外科学 【東横病院】 吉田 泰之	非外傷性で血腫除去術を必要とした患者 2017年4月1日～ 2020年10月31日	ワルファリン治療関連脳内出血では手術で止血に難渋する、あるいは再出血をきたすことがよくある。乾燥濃縮人プロトロンビン複合体製剤(PCC)が承認されワルファリン内服患者の緊急手術も安全に行うことが可能となった。PCC投与後に開頭血腫除去術を施行した症例に関して後方視的に検討する。	患者背景、来院時のバイタルサイン、術前の意識レベル(GCS)、神経学的所見(NIHSS)、出血部位、血腫量、手術時間、出血量、術前後 PT-INR値、入院期間、mRS	100例

通常診療により得られた診療情報を用いる観察研究（2021年12月1日現在）

承認番号	課題名	実施期間(開始日)	実施期間(終了日)	所属 実施責任者	対象疾患 (調査対象期間)	研究概要	抽出項目	予定症例数
第5288号	JACCRO GC-08における血漿検体を用いた可溶性免疫因子のバイオマーカー研究(JACCRO GC-08AR)	2021年7月15日	承認より6か月	臨床腫瘍学 砂川 優		URL参照 https://www.marianna-u.ac.jp/houjin/disclosure/clinical-research/marianna/file/optout/5288.pdf		
第5360号	急性期再開通療法後に外減圧が必要になる予測因子の観察研究	2021年7月16日	2024年5月31日	脳神経外科 【東横病院】 小野 元	急性期再開通治療術を施行した前方循環の急性期脳梗塞 2013年1月1日～ 2020年2月1日	急性期主幹動脈閉塞にて未治療であれば死亡もしくは予後不良となる症例に対し、急性期再開通治療の有効性はすでに多くの報告がある。しかし再開通治療実施後も改善がなく外減圧術の追加を余儀なくされる予後不良例もあり、単一施設における急性期再開通療法症例後に対して外減圧治療への予測可能因子を検討することを目的とした。	年齢、性、危険因子、脳梗塞の特徴(臨床病型、閉塞血管、入院 NIHSS)、治療内容(tPA 静注療法、併用治療)、治療結果(再開通率、治療合併症、治療時間)	120例
第5410号	消化器内科での診療実績と今後の課題の検討のための医学系研究	2021年10月12日	2026年6月30日	内科学 (消化器・肝臓内科) 【東横病院】 落合 康利		URL参照 https://www.marianna-u.ac.jp/houjin/disclosure/clinical-research/marianna/file/optout/5410.pdf		